

平成19年度全国女性委員会議報告

1 目的

女子委員会と地方陸上競技協会との連携を密にして、お互いが活躍できるようにする。
女子委員の資質向上と会議の充実を図る。

2 日時

平成19年7月7日、8日

3 場所

岸記念体育館

4 日程

- (1日目) 挨拶 山崎寿美子 日本陸連女性委員長
曾根幹子 日本陸連理事
報告 女性委員長
報告 竹林幸江 広島陸協理事 「第24回レディース陸上大会の報告」
「第25回大会開催案内」
分科会 「選手強化のスキル」
(2日目) 講演 「陸上競技と学校運営」 佐々木裕子 (岩手陸協)
「スポーツ選手のセカンドキャリア」 八鍬美由紀 (株式会社パソナ)

[報告]

広島県出身の曾根幹子先生が、女性理事を陸連のなかにたくさん入れたいという話が印象的。女性部に関しては、お飾りのものではなく、地域で活動している人をどんどん理事にし、女性ならではの視点を入れてほしいとのこと。たとえば、女性アスリートの投影問題、男性指導者のセクハラ問題、競技場の環境問題、女性アスリートの就職支援など。今後この視点をもって活動を考える必要がある。次に第24回レディース陸上について、好記録続出の背景に走路の逆走利用などを即決する広島陸協の運営のすごさを感じるものであった。また選手への行き届いた配慮であることを報告で語られていた。2日目は、岩手県の小さな中学校を走ることを通してかえていった実践発表。全校生徒が特設陸上部に所属。毎朝1時間あまりの全校トレーニングをつみ、400m日本一の選手や駅伝全国大会出場などの輝かしい実績をあげられた先生の信念や指導方法など話されている。「教育の原点は大人になるための修行」「挫折に強い人間を育てる」という教育理念のすばらしさが伝わる講演会だった。